

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 3170100683 | | |
| 法人名 | 社会医療法人 明和会 医療福祉センター | | |
| 事業所名 | グループホーム オータムハウス | | |
| 所在地 | 鳥取県鳥取市覚寺51-5 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年11月29日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年1月15日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.wam.go.jp |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス |
| 所在地 | 鳥取市湖山町東2丁目164番地 |
| 訪問調査日 | 令和5年12月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆつくり・一緒に・楽しんで」をモットーに、入居者一人一人のペースを大切にしながら日々生活を送って頂くよう支援している
 コロナ禍で以前のように入居者と一緒に買物に行ったり、地域の運動会や納涼祭に出かけたりする事は困難になったが、出来るだけ外の空気に触れられるよう、ドライブや散歩、施設を貸し切ってお出かけレクなどホーム内にこもらないような活動を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念、生活理念に加え、「今年目標」を職員・管理者が一体となり考え、日々の実践に活かされている様子がとても強く感じられました。特に、利用者に対して深い尊厳の気持ちを持ちながらも、利用者本位のサービス提供に努められていることがひしひしと伝わりました。その思いは利用者やご家族にも伝わり、明るく穏やかな利用者の表情や、家族の面会の多さにも表れているようでした。
 管理者と職員の関係も大変良好で、活発な意見を出し合いながら、サービスの質の向上を共に目指しているのがうかがえました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念、生活理念をいつでも見えるように掲示している。それに基づき年度初めにはオータムハウスの目標を掲げ、達成できるように取り組み振り返りも行っている。 | 地域密着型サービスの意義をしっかりと踏まえた理念を軸に、さらに具体的な今年の目標を職員が一体となり掲げ、実践につなげている。 | せつかくの素晴らしい理念を、誰の目にもつきやすい玄関にも掲示されてはどうでしょうか。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在コロナ感染予防のため、直接的な交流は出来ないが、美術館の催し物や公民館祭等に作品を出したり介護エピソード募集に応募したり、地域に季刊誌「四季」を配布している。 | 地域の方々に正しく認知症を理解してもらうため、季刊誌を配布している。公民館まつり等へも作品を出展し、コロナ禍の中でもつながりを持ち続けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ感染の状況を見ながら、実習生の受け入れ、研修医の見学、季刊誌「四季」の配布、運営推進会議で取り組みを報告をして、認知症の理解や支援の方法を伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事業所の取り組み、活動状況、入退居を含めた利用者の状況、事故報告等を行い、意見を頂いてサービスの向上につなげている。会議でしゃんしゃん体操の情報を得、取り入れようと担当を決め準備を進めている。 | 運営推進会議は定期的開催され、委員の方からは活発な意見が出ている。それらの意見はすぐにフィードバックされ、スタッフ会議等で語り、サービスに活かされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議で事業報告を行い意見を頂いたり、機関紙「四季」の配布、事故報告等も行っている。市からのメールで情報を得、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 日頃から、運営に関しての相談などを密に取り合い、良好な関係が築かれている。鳥取市から提案された「しゃんしゃん体操」はすぐに取り入れている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年2回の研修会を行い、身体拘束をしないケアの理解を深めている。毎月のスタッフ会議で身体拘束委員会の報告やオータムハウスでの現状を話し合い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。今後は実践的な研修も取り入れていく予定。日中は鍵をかけた自由に入出りできるようにしている。また帰宅願望のある利用者が外に出られた時はスタッフが付き添い一緒に外で過ごしてから帰所するようにしている。 | 日中、施錠は行わず、外に出ようとする利用者には、止めるのではなく、満足されるまで寄り添っている。「その人のやりたいことを、やりたい時にしてもらう」ことを大事にしている。研修にも力を入れ、Eラーニングでの受講も取り入れている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についての勉強会をしたり、アンケートなどをとって不適切なケアがないかをチェックし、改善点があればそれについても具体的に話し合っている。ケアに迷いがあったり、虐待に繋がる事ではないか等疑問があればスタッフ間で相談しあえる関係づくりを心掛けている。 勉強会を行う事で職員一同が「今の自分自身の関わり方」を振り返る機会となり、防止に繋がっている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在権利擁護に関する制度を利用している利用者はいないが、必要となる時のために研修等に参加して制度への理解を深めるようにしている。玄関に文書を準備し案内できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に事業所のケアに関しての考え方や取り組み、解約を含めた事業所の対応について説明している。料金等の改定時も家族に直接説明し文書で同意を得ている。解約時も今後の事を関係者と話し合い、納得が得られるよう取り組んでいる。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議で意見を聴く機会を設けたり、お便りや電話、来訪時等機会あるごとに話しやすい雰囲気を中心掛けている。出された要望・意見は話し合って反映させるようにしている。 苦情があった場合の書式もあり、苦情に対してしっかり対応し職員間で共有できるようにしている。 | 家族からの意見・要望は、どんな小さなことでも記録し、全体の問題としてスタッフ全員で共有し、取り組んでいる。来所された家族には積極的に声をかけをし、コミュニケーションを図っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 施設長や管理者は職員とコミュニケーションをはかり、意見交換を行っている。個別面談も実施している。チーム会やスタッフ会議で話し合ったり、連絡ノートに意見や提案を出し反映させている。 | スタッフを2チームにグループ分けし、少人数で意見が出しやすいように配慮されている。年に2回個別面談を行ったり、会議で活発な意見が出されたりしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | スタッフ会議で業務に関しての話し合いを行ったり、研修参加の機会、個人意欲評価表等利用し職場環境改善に努めている。ストレスチェックも年1回行われている。休みの希望等働きやすくなるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修に出来る限り参加出来るように勤務を組んでおり、その内容をスタッフ会議で報告したり、復命書を回覧する事で全員が共有できるようにしている。Eラーニングも毎月テーマを決めて視聴している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 運営推進会議に知見者として相互に参加し意見交換を行って取り組みを学んでいる。コロナ感染予防のため管理者ネットワークの会は自粛しているが、ウェブ等での交流も行えたと感じる。GH協会主催の相互研修も自粛のままである。早くコロナ前のような交流が出来るようになればと感じる。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に実調に行き、本人に会って心身の状態や思いなどを聴いている。家族等本人と関わりのある人から生活歴や病歴、趣味等を把握するよう努め、本人の不安や思いを理解するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に施設見学に来ていただき、利用者の状況や家族の要望、不安な事や困っている事等聴き、事業者としてどのような対応が出来るのか話し合い、信頼関係が築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の調査の情報、面談での本人・家族の要望を基に「その時」必要としているケアを提供できるように心がけてケアプランの作成に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「ゆっくり・一緒に・楽しんで」をモットーに、お互いを支え合い協力しながら生活する場面作りに努めている。声かけをして一緒に活動をしたり、本人の思いを引き出せる様にコミュニケーションをとり、寄り添いながら共に生活していると思えるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 運営推進会議で活動状況などを報告。毎月のお便りには写真も載せて生活の様子を伝えている。電話やウェブでのやり取り、受診付き添い時や来訪時に利用者の様子を伝えるようにしている。家族の意向を聴き、家族と本人の絆を大切にして、同じ方向で支援するように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ感染防止のため外出は自粛しているが、ドライブで馴染みの場所を巡る支援や状況に合わせた面会、手紙の支援や絵手紙作り、年賀状書き、贈り物のお礼の電話をかける等関係が途切れないようにしている。 | 本人が一言添えた絵手紙や、敬老の日や誕生日に届いたプレゼントのお礼の手紙を書くための支援を行っている。テレビ電話で家族と話されることもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の良好な関係が取りにくい利用者に対しては、職員が個別に関わりを多く持つようにしている。利用者同士の関係性を把握し、席の配置やその時の利用者の状況に合わせた活動が出来るよう配慮し、関わりが持てるように橋渡しをするよう心掛けている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスの利用が終了した時には次の利用先に介護連絡票でこれまでの生活状況を伝えている。また、利用先からの問い合わせや家族からの相談にはいつでも対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族の意向や要望を聴いたり、意思の伝えられる利用者には本人の意思を確認し支援を行うようにしている。思いを表現できない利用者に関しては、表情や日頃の言動から希望や意向を汲み取り、職員間で話し合いながら本人の思いに添えるよう努めている。 | 普段のふとした会話の中から思いをくみ取るように心がけている。 好みのお菓子やお茶を希望される方があり、体調を考慮しながら満足してもらうよう対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日々の暮らしの中での本人との会話や、面会時や電話での家族とのやり取りの中で、これまでの生活歴や生活環境等の情報収集に心掛けている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアチェック表や生活記録、連絡ノートに活動内容や心身の状態を記入し情報を共有したり、職員間で日々気づいたこと等を話し合いながら利用者の現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | チーム会でケアの方向性を確認し、日々の記録や本人・家族・主治医の介護に対する要望を取り入れ、モニタリング、アセスメントを行いサービス担当者会議で話し合い介護計画を作成。チーム会、スタッフ会議で共通認識するように検討し、現状に即したケアプランになるようにしている。 | 介護計画は、家族からの要望も十分聞き取りながら、6カ月の一度見直しを行っている。日々の介護支援経過記録はとてもしっかりと丁寧に記録され、チーム一丸となって一人ひとりに沿った介護計画が立てられている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の様子やケアの実践、結果、気づき等を介護記録に個別に記録するようにしている。また、職員間で話し合ったり、連絡ノートを活用して情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。記録は取り組みへの資料となるので、気づいたことは残していくようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 既存のサービス以外に個々のニーズに合わせて柔軟に対応している。家族の状況に応じて、受診・買い物等の対応もしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ感染予防のため外出は自粛している。公民館祭や美術館への作品展示、図書館利用(職員が借りてくる)、ドライブで外の景色に触れたりしている。離脱する可能性が高く、場所が分からなくなる方のため、家族に許可を頂き近隣に情報提供し協力体制を作ったり、鳥取市の見守り支援サービスを利用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医は指定しているが、実際どこを受診するかは本人・家族の希望を優先している。定期受診時は受診に必要な情報を近況報告書で提供、場合によっては直接ご家族に話したり、主治医に電話連絡したりして適切な医療を受けられるようにしている。 | 受診同行は基本的に家族が行っているが、緊急時や都合に合わせて対応が行われている。医者や家族への報告体制も十分整っており、職員にも共有できるようきちんと記録されている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職は常動していないが医療連携でいつでも相談できる体制は整えている。夜間や担当不在時は法人内の看護職と連携を取り相談できる体制がある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は入院に至る状況、経過や本人の生活状況、身体面、精神面の情報を提供して、安心して治療を受けられるようにしている。入院中は家族からの情報や入院先のソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化した場合の事業所の方針を説明している。重度化した場合、本人・家族の意向を聴き、主治医・ソーシャルワーカー等と話し合い方向性を決めている。ご家族には必要に応じてお便りや電話で本人の心身の状況や生活の様子を伝えるようにしている。 | 看取りに対する法人理事長の方針を職員誰もが正しく理解し、入居時に利用者や家族に十分説明したうえで、理解をいただいている。重度化した場合は、適切な施設等を紹介し、できる限りの支援が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に研修に参加したり勉強会を行い、マニュアルの確認等も行っている。 定期的にマニュアルの見直しも行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 家族にも災害時の対応を伝えている。消防署に機関紙の配布をしている。防火管理者を中心に火災想定年2回、災害時の訓練、避難経路の確認、通報装置や消火器の使い方等の訓練も行っている。水害時の訓練も行っている。災害時の応援体制も確認している。マニュアルの見直し、備品の確認を行っている。 | 昼と夜間を想定して、年に2回の訓練が行われている。消防署や地域住民とは日頃から関係を築き、グループホームについての理解をいただいている。コロナや災害時の備蓄品も整い、管理もしっかり行われている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は利用者のプライバシー保護について認識している。日々の接し方を職員間で話し合いながら、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した声掛けや言葉使いに心掛けている。羞恥心に配慮したトイレ誘導や入浴介助に心掛けている。 | 利用者一人ひとりの尊厳を常に尊重しプライバシーを遵守した支援を心がけている。特にトイレ誘導の時などは、言葉のかけ方に配慮し、羞恥心を感じられることのないように心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃からコミュニケーションを多く持ち、本人の思いや希望等を話しやすい環境作りに努めている。自己決定が難しい場合は、選択肢を提示したり分かりやすい対応に心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはだいたい決まっているが、流れの中でも個々に沿った声掛けや対応に心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | コロナ感染の状況をみながら、福祉理美容を利用してカットを行っている。本人が美容師に希望を言えない時は、本人の好み等日頃から把握して代わりに伝えたりしている。起床時に整容や更衣の声かけを行い必要に応じて介助している。服を選ぶ時は自分の着たい服を本人に選んでいただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬の食材を使ったり、好みの物を聞きメニューに取り入れている。能力に合わせながら一緒に食事作り、準備、片付けを楽しみながら行えるようにしている。誕生日には本人が食べたい物を聞きメニューに取り入れている。 | 管理栄養士のアドバイスもいただきながら、利用者の要望や旬のものを取り入れながらメニューを考えられている。盛り付けや配膳、後片付けも、できることをできる人が楽しそうにされている様子がうかがえた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は管理栄養士がチェックしている。管理栄養士のミールラウンドも定期的に行いアドバイスを頂いている。食事量・水分量も個別にチェックして記録し、水分量に少ない方は好みの飲み物で摂れるようにしたり、夜間部屋に飲み物を置いていつでも飲めるように対応している。また、食べ物が噛みづらい方は細かくカットしたりブレンダーを使用して食べやすくして提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアが出来るよう環境を整えている。個々に合わせて介助をしたり義歯洗浄も行っている。定期的に義歯や口腔ケア用具の消毒も行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者一人ひとりの排泄パターンや回数、量をチェックし排泄状況の把握をしている。パットやリハビリパンツの使用の検討や失禁の回数が減ったり増えたりした場合の対応の仕方など、職員間で話し合いながら自立へと繋がるケアを心掛けている。トイレを清潔に保つため、掃除以外にも午前、午後チェックもしている。 | 利用者の排泄パターンを把握し、歩ける方はさりげない誘導をしながら支援を行っている。一人ひとりに合わせた自立に向けてのサポートも、スタッフ会議で話し合いながら行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排便状況を把握して下剤の調整を行っている。毎朝ヨーグルトを提供している。水分量の確認、野菜が多くバランスの良い献立を心掛けている。外出自粛の中運動不足になりがちなので、散歩や運動を取り入れた活動を心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は予め決まっているが、希望を聞きながら変更する事もある。湯温や室内の温度も季節に応じて調整し、気持ちよく入浴できるようにしている。ゆず湯なども楽しめるよう毎年計画している。入浴準備も利用者と一緒にいきその日の体調や気分を配慮し、無理強いせず個々に応じた入浴支援を行っている。 | できるだけ希望に沿った時間に入浴できるように、体制が整えられている。家族・地域の方々から差し入れられたゆずや菖蒲の葉を入れたお風呂で、入浴を楽しむことができる心配りがされている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣や状況に応じて休息が取れるように心掛けている。夜間も室温調整や照明等本人と話し合いながら調整している。寝る前には温かな飲み物を提供し、穏やかな気持ちで入眠できるようにしている。日中は活動の声かけを行い生活リズムが整うように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 現在服薬中の薬情報はファイルに綴じていつでも見えるようにしている。処方変更時は説明書を回覧して情報共有し、変化があれば主治医に報告して指示を仰いでいる。些細なことでもハットヒヤリを記入して回覧後スタッフ会議で報告し職員間で情報共有。大きな事故に繋がらないよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の得意な事を探し、役割分担している。ドライブ、外出レク、行事レク等気分転換をはかりながら楽しみが持てるように支援している。コロナ感染予防の為クラブ活動はまだ合同で行ってはいないが、ホーム内で継続して楽しんでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ感染予防のため外出は自粛している。ドライブや散歩、ゴミ捨て、施設を貸し切ったの外出等を楽しんでいる。 | 遠方であっても、貸し切りのできる施設にドライブに出かけ、焼き芋を食べて楽しめるなど、コロナ感染予防に配慮しながらも、できるだけ気分転換できるよう、希望に沿った外出支援が行われている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々のお金の管理は事務所でやっているが、本人の希望の物はいつでも買う事が出来るようにしている。利用者によってはご家族了承のもと財布を所持されている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在はほとんど活用していないが公衆電話を設置している。活動で絵手紙を書いて送ったり、自ら手紙を書かれる利用者には手紙セットの準備、投函支援を行っている。リモート面会で遠くの家族と会話を楽しむ利用者もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が落ち着いて生活できるようにソファやテーブルの配置をしている。自由に読書が出来るように図書館から本を借り、環境作りを行っている。毎月の壁画の作成を一緒に行ったり、花を生けて季節感を感じてもらっている。匂い、温度、湿度、テレビの音量にも配慮している。 | 玄関を入るとすぐに利用者の方々と作られた季節を感じる作品が飾られている。共用の空間はどこも清潔に保たれ、利用者が思い思いに寛がれている様子がうかがえた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにはテーブルやソファ、椅子があり、利用者がそれぞれにテレビを見たり、音楽を聴いたり、新聞や本を読んだり、会話したりしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には本人が心地よく過ごせる様、使い慣れた家具やラジカセ、テレビ等を置く利用者もいる。活動で作成した作品や絵や写真等を飾り、居心地の良い空間になるようにしている。机や椅子を置いてゆっくり過ごせる様な工夫をしている。 | 居室は広く清潔で、ご家族の写真や作品等が飾られ、とても居心地の良い空間となっている。筆筒の引き出しに入っているものも、わかりやすく表示され、取り出しやすくしまいがちの工夫がされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室は分かりやすく表示している。共用廊下には所々に椅子を置き、いつでも休めるようにしている。利用者同士助け合っている場面も多く、馴染みの関係が出来ている。できない事のみ支援が出来るよう本人の状態を把握し、手を出し過ぎない支援を心掛けている。職員間で状況を把握してどこまでできるのか、どう援助したら出来るのかを見極めて支援している。 | | |